

リシノプリル	66785	250	1	7.5	7.4
ロサルタン	39273	28	0	4.8	4.3
エナラプリル	81444	25	1	4.1	3.4
Ramipril 注2)	41478	14	1	3.8	3.0
ペリンドプリル	37900	13	0	3.8	2.9
オルメサルタン	18253	6	0	3.2	1.8
イルベサルタン	17931	5	0	2.9	1.4
ベナゼプリル	4114	4	0	3.0	1.3
バルサルタン	39915	5	1	2.5	0.9
カプトプリル	33350	3	0	1.9	-0.1
ARB	33	1	0	1.6	-2.2
サクビトリアルバルサルタン	121629	2	2	0.3	-2.3
Quinapril 注2)	6224	1	0	1.4	-2.4

注1) 全医薬品での腸管血管性浮腫の報告数は、414件であった。

注2) 国内では販売されていない。

■ 結果を踏まえた考察

VigiBase を用いた不均衡分析の結果、一部のレニン-アンジオテンシン系阻害剤と腸管血管性浮腫の関連性が示唆された^{※3}。レニン-アンジオテンシン系阻害剤の電子添文に腸管血管性浮腫に関する注意喚起を追記するにあたり、不均衡分析結果を改訂根拠の一つとする。

※1 : VigiBase は、医薬品の有害事象報告の WHO のグローバルデータベースを情報源とする。データが限られているため、事象と医薬品との因果関係を明らかにすることは困難である可能性がある。

※2 : 不均衡分析は仮説生成や洗練のためのアプローチである。

※3 : 作成された情報、結果及び結論は、ウプサラモニタリングセンター/国際医薬品モニタリング WHO 協力センター又は WHO の意見を反映するものではない。